

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会（宮古地区）
懇談の記録（要旨）

【宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村】

令和6年5月24日（金）

宮古地区合同庁舎 3階大会議室

山本 正徳 宮古市長

- ・ 中間まとめについて、基本的にはこの方向でよいのではないかと。教育の質の保証という点において、小規模校の各教科の専門教員がいない部分を、遠隔教育や校舎制等でカバーするというようなことを考えた報告である。
- ・ 私立高校に進学する生徒の割合が増えている点も踏まえて検討していく必要がある。

佐藤 信逸 山田町長

- ・ 沿岸部と内陸部の教育の格差が顕在化しているのではないかと。地方と中央との格差も相当開いており、経済合理性だけで、教育を議論できなくなっているかもしれない。
- ・ 今後の高校教育の在り方を検討することは大変難しいと思うが、中間まとめの考えで進めて行けば、概ね良い方向に進むのではないかと。

中居 健一 岩泉町長

- ・ 現行計画を進めた結果をどのような形で分析しているか伺う。
- ・ 再編計画策定に向けてのスケジュールを伺う。
- ・ 再編計画策定については、市町村にも情報を共有しながら、地域の高校教育の環境を充実した形になるよう進めていただきたい。
- ・ 少子化の中でこれからの学校運営をどうするかは悩ましい問題であるため、県教委、市町村、地域が一緒になって高校教育のあるべき姿を検討していただきたい。
- ・ 県土が広く、地理的な条件もあるため、教育の機会の保障と教育の質の保証の部分について、地域性も加味した計画にしていきたい。

佐々木 靖 田野畑村長

- ・ 入学者数が2年連続で20人以下となった場合には原則、募集停止の方針について伺う。
- ・ 再編計画においては、県土が広く通学に困難が生じる場合があることを配慮していただきたい。
- ・ 県土が広い中での高校再編は大変なことと承知しているが、家庭の経済的な理由で、進学を断念する子どもが出ないように、小規模校の在り方については、特別の配慮をお願いしたい。
- ・ 地域に学校がなくなるのは大変なことであると身をもって感じたことがある。

前田 宏紀 田老町漁業協同組合 参事

- ・ この地区にも1学級校があるが、良い方向に進んでおり、生徒が地域の様々なイベントや活動にも参加して助かっている。
- ・ 県や市町村では、子どもが増えるような政策をしていただきたい。
- ・ 高校がないと地域が活性化されず、職場において人手不足となる点も考慮していただきたい。

中村 敏彦 漁業

- ・ 中間まとめは、これからの高校教育の在り方、人口減少により考えられる課題について、ほぼ網羅されたものだと思う。

- ・ 将来の進路選択の幅を狭めない長期ビジョンとしていただきたい。
- ・ 統合により通学が困難になる場合には、通学支援の検討を行うことの説明があり、小規模校のある地域にも配慮されている。

三浦 保明 岩泉町森林組合 参事

- ・ 中間まとめの基本的な考え方に、地域や地域産業を担う人材の育成とあるが、各分野での地域の振興を図る上でも、学校は大事である。
- ・ 高校がなくなり、生徒が一旦地域から離れると、戻ることが難しい状況になるので、地域に高校を存続させる方向で考えていただきたい。

八重樫 健太 有限会社樋合商店 代表取締役

- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒には、経済的な支援を必要とする生徒が含まれるのか伺う。
- ・ 多くの高校に、教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍しており、適切な指導や支援を行うことが必要であるとのことだが、併せて、今後、経済的な支援も必要になってくると思われるので、その仕組みづくりを考えていただきたい。

澤口 靖 田野畑村商工会 事務局長

- ・ かつては、専門高校において介護福祉士の資格を取得できる等の専門性の深い学びがあったが、現在は再編が進み、専門性が浅くなっていると思われるが如何か。
- ・ 高校再編を検討する場合は、専門性を追求するため、農業なら農業高校、工業なら工業高校として維持していただきたい。
- ・ 資格取得や専門的な知識、技術を得るために深く勉強できる学科や最先端技術に対応した専門教育を考えていただきたい。

熊谷 吉秀 田野畑村森林組合 代表理事組合長

- ・ 高校再編において、各ブロック内で希望に応じた進路を選択できるような学校配置を検討しているとあるが、盛岡市への一極集中も避けられると思われるので、積極的に進めていただきたい。
- ・ 高校卒業後に地元の事業所等に就職すること、県内外の大学に進んでも最終的にはその地元に戻ってくることが、地域や地域産業の担い手育成に重要である。そのために、市町村等による企業誘致や1次産業への支援が必要である。

坂下 実穂子 宮古市PTA連合会 会長（宮古市立崎山中学校PTA会長）

- ・ 人口減少が進行しているが、管内には、普通高校、専門高校がある他、定時制や通信制高校があり、高校選択において幅があり、将来を見据えた学習環境が整っており大変ありがたい。
- ・ 沿岸部と内陸部の教育格差を感じている。
- ・ 若い世代が夢を実現し、地域で活躍するために、より一層魅力ある高校づくりに、保護者や地域と一緒に取り組んでいくことができればよいのではないかと。

林崎 功 岩泉町PTA連合会 前会長

- ・ 人口減少により、町の存続に危機感を持っている。
- ・ 地元の高校へ進学させるためには、中学校前の段階から、地域の良さを大人から伝えていくことが大事である。
- ・ 地元から離れて分かる良さや残って分かる良さなどを学校と地域が連携して伝えることが、高校教育の充実の他、地域人材の育成にも繋がる。

工藤 士文 田野畑村立田野畑中学校PTA 会長

- ・ 中学生や保護者が何を求めているかを汲み取っていただきたい。
- ・ 地元から離れず残るのではなく、地元から一旦離れても、地元の良さを分かって戻ってくることを期待している。
- ・ 地元の魅力を分かる教育を小中学校で行っているので、生涯学習として継続していただきたい。
- ・ 進学希望者、就職希望者それぞれについて、地元に残りたいかを把握して、生徒の希望に沿った進路指導をしていただきたい。

伊藤 晃二 宮古市教育委員会 教育長

- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒は年々増え、普通高校でも増えている。
- ・ 宮古恵風支援学校のアクセス、環境について厳しい状況である。
- ・ 高校と特別支援学校との連携について、二戸市で特別支援学校が旧福岡工業高校敷地内に整備されるとのことで、宮古地区でもニーズが高まっており、宮古恵風支援学校の環境整備について配慮いただきたい。

松葉 覚 山田町教育委員会 教育長

- ・ 少子化により、保護者が子ども一人にかかる教育費が増え、幼少期からスポーツや習い事をして、高校でも継続したい場合は、保護者は、子どもが内陸の高校に進学するために支援すると考えられる。
- ・ それぞれの高校が特色・魅力を強く出し、小中学校の段階からその特色・魅力に加え、地元の良さを知ってもらうことが大事である。
- ・ 地元の高校でも自分がやりたいことができることが大事である。

巖岩 千裕 岩泉町教育委員会 教育長

- ・ 岩泉高校には、以前まで不登校であった生徒も入学しているが、現在は不登校がなくなっている。高校に魅力があるから登校すると思われるので、県教委、高校、町が連携して高校の魅力化に取り組んでいきたい。

藤岡 宏章 田野畑村教育委員会 教育長

- ・ 多様な学習機会の提供が重要である。生徒にとって多様な選択肢があることが最も望ましく、選択の幅が狭まるということは避けていただきたい。
- ・ より広域での再編であるが、生徒や家庭の負担が大きくなることを踏まえるべきである。

高橋 敦 宮古地区中学校長会（宮古市立田老第一中学校長）

- ・ 特に教育の機会の保障と教育の質の保証が大事であり、全県において学びの場を保障していただきたい。
- ・ 小規模校だからといって、教育の質を下げることはできない。
- ・ 教員、教育環境、設備をしっかりと整備して教育の質を確保していただきたい。
- ・ 中学校と高校、地域と高校がどのように連携できるか広い視点を持っていただきたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 現行計画の振り返りについて、現行計画を策定した際は、1学級校が少なかったが、今は11校となった。特例校は、他地域への通学が極端に困難な地域に所在している学校を指定しているが、他にも特例校とすべき条件があるのではないかと考えている。次期計画では、現行計画をしっかりと振り返り、反映させていただきたい。

- ・ 今後のスケジュールについて、今回の地区別懇談会開催後に、有識者会議を2回開催する予定である。そこで、今回の意見等を有識者会議に諮った上で、パブリックコメントを実施し、長期ビジョンを公表することとなる。
- ・ 入学者数が2年連続して20人以下となった場合について、高校の魅力化の取組や町の支援の状況を踏まえて統合を見送り、入学者数が回復した高校の例もある。入学者数が2年連続して20人以下となることが予想される場合も、地域との意見交換会を開催し、他に方策がないかを模索しながら対応している。
- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒の定義について、経済的な支援を必要とする生徒は含まれないもの。経済的な支援については、保健福祉部や市町村の貸付制度があり、学校等を通じて相談していただきたい。
- ・ 専門高校の資格について、介護福祉士の受験資格が得られる県立高校は、一関第二高校、久慈東高校、北桜高校である。ただし、介護福祉士の資格取得については、卒業後3年間の実務経験が必要となる教育課程である。
- ・ 宮古恵風支援学校について、平成28年の大雨で長期間学校を再開できなかったことは県教委でも認識している。

佐藤 信逸 山田町長

- ・ 自治体の支援とは、何がポイントになるか、金額の多寡であるか伺う。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 自治体の支援は、経済的な支援もあるが、小中高の連携、入学者数の確保、地域との連携を支援していただく人的な支援が主である。

中居 健一 岩泉町長

- ・ 岩泉町は地理的な特殊性があるため、町外の学校に進学するには経済的な負担も大きく、高校がなくなれば町としての体をなさない。高校を存続させるために、町としても相当の支援をせざるを得ない。
- ・ 小規模校という表現に納得できない部分もあるが、そのような学校でも地域の中でしっかり学び、地域貢献をしている。

伊藤 晃二 宮古市教育委員会 教育長

- ・ 宮古市は、今年度、大幅に奨学金制度を変え、各中学校、高校から好評である。奨学金制度の在り方についても検討していただきたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 小規模校という表現について、統廃合の印象を受ける方もいるが、現行計画の策定時と異なり、現在は遠隔教育が本格化することにより、学校を維持できる可能性がある。国においても、遠隔教育についての要件を緩和している。

山本 正徳 宮古市長

- ・ 在り方検討会議では、教育には一定規模が必要である、ICTだけでは対応できないといった意見もある。しかし、大きな学校でスケールメリットを出すことも必要だが、小規模校であっても質を高め、人数が必要な場合は学校間連携をするなどの工夫ができると思われる。
- ・ 県教委だけに任せるのではなく、自分のこととし、高校教育をみんなで考えていきたい。